



【刊夕】日四十月四

南に比佐、北に氏家

築港運動の大相撲

四倉と松川浦の土儀に立組つはぐれつゝの兩代議士

石城郡四倉と相馬郡松川浦とが築港の大體目的を以て通過し明年度から三ヶ年海州餘里に對する配置上而繼續の豫定である同事業に對しては既に小名濱の漁港に對して關係地元部民は各々加ふる商港先を競ひ四倉側では

比佐代

議士を介する上局への運動に没頭し松川浦では氏家代議士の援助を受けて實現に奔走してゐるが比佐代も吾黨關係の奪取を先きにすることが當然である爲めに當局として

苦境に

立つてゐる且つ兩者を企てた地方關係にありても四倉は現小柳知事の企畫であり松川浦は前々回の吾黨知事によつて起された計畫で何れを鳥籠となし得ない

羽目に

陥つてゐる模倣であるが更に地元の實況を見る時に於て發動機船四五隻に過ぎない

同地は

四倉の同船數十隻に到底比較でなく然ふもの、是も過くそれでもを誇つて公園へ

自態船

の宿舎であつて容なき所に宏大な旅館の建ちあがりとも云はれてゐる此の軍配が何れに上るか片や比佐代氏や氏家兩代議士の取組が是して何れに勝つてゐるであらう其の結果を興味されてゐる

植田民政俱

樂部の總會

終つて觀櫻會

平公園の櫻花盛は

來る十六、七日頃か

今日も雨後相當の賑はひ

是からが一層の見もの

櫻の公園平町松ヶ岡の賑はひは思ひ立つた行樂の氣を押へ

ひは去十日の忠魂祭に火蓋

を切つて懸けた二業組合の

觀櫻會に浮立つ氣分を煽ら

れ引續く聯合消防檢閲やら

假裝競技等に

昨十二 日まで引も

春雨に興を深はし近午近く

から晴れた空に雨後の艶な

花の姿が一きは行樂の人

遠藤教諭

明日出發

廿余年勤續の聲中に別れて

縣立警城中學に廿餘年を勤

續した長任教諭遠藤兵太郎

は今回勇退して郷里山形縣

鶴岡に悠々自適する等であ

るが明十五日午前八時十二

分平驛發の常磐線下り列車

で出發する

入山探炭の

山神祭

呼び物の山車

で持切る景氣

湯本町の入山探炭に於ける

十五、六兩日の山神祭は

不景氣をこのけの大催し

ある等であるが呼び物は第

一區から第七區に分ける各

區思考を凝らした山車にお

囉連數百の笛や太鼓が全山

を練る賑やかさが見物であ

らうと唱ひられ昨今その話

で持切られる前景氣から同

坑當年の祭禮は別して大盛

幸運はがき

本社へ

何人の物好

にや昨十三日

日本來世を迷はしてゐる

「幸運を貴家へ」のはがきが

何人の物好きに昨十三日

午後半局の消印で本社半谷

「はがき」一枚に左右されて

此宅へも配達されたが謂所

悪に遭ふなら大した事であ

同様に馬鹿氣たこと

同様に「はがき」一枚をもち

同時に實行せぬ者も多數あ

るに相違ない其人々が次

が次へ譯も判らず出された

仕事業を行ひ山を崩し辭を

埋めて二千坪の廣場を造り

上げたので来る十五日、六

日の例祭に選宮式を兼ね神

樂及び素人芝居等の餘興に

賑ふ筈であるが新境内の二

千坪は運動場にも使用する

計畫で奉仕労働の延人員二

千五百人を要したものであ

ると

奉仕作業で

大運動場

磐炭綴坑に於て

山神社の遷宮式

磐炭綴坑では綴坑事務所裏

山の景勝地に山神社の移轉

を企畫し全従業員交代を以

て昨年三月以降公休日に奉

仕作業を行ひ山を崩し辭を

埋めて二千坪の廣場を造り

上げたので来る十五日、六

日の例祭に選宮式を兼ね神

樂及び素人芝居等の餘興に

賑ふ筈であるが新境内の二

千坪は運動場にも使用する

計畫で奉仕労働の延人員二

千五百人を要したものであ

ると

と

と

と

と

と

と

と

と

政談演説

石城民政青

年會に於て

石城地方に於ける民政黨同

志青年から成る石城民政青

年會では本月下旬同會の本

部を置く平町に發會式を舉

行の筈であるが當日は比佐

代議士及び同黨本部から經

済學に明るい代議士法學博

士田中眞氏が來援し同町と

内郷村の二ヶ所に於て政談

演説會を催すと

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

古河炭礦の

山神例祭

三日間に亘る各種餘興

石城郡好間村の古河炭礦で

は来る十五日、六の兩日に例

祭執行の筈であるが初日

祭執行の渡御あり餘興は十

四日夜から十六日まで三日

間に亘り活動寫眞、素人芝

居、劍柔道、銃劍術、運動

會等を催され祭日を通じて

數百發の煙火に一層の景氣

を添ふる由

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

俳句

柳櫻をこ

まき交せて

満壽莊主人

山櫻の明りに下る夜舟が

明るいのである

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と



西瓜栽培 (三)

本縣農試 石城分場 矢ヶ崎技手

一、較察

くら葉は播種一週間前に所定の株に基肥を施し土とよく混合し六寸平方位の大きさに土の表面より幾分高めに設けること

二、畦巾と株間

是れは西瓜の品種により異なるがアイスクリームの如き大形のものには六尺平方に一株位とし大和西瓜の如きは六尺の畦巾に株間五尺乃至四尺位がよろしい

三、肥料

西瓜の肥料に主として用ひられるのは堆肥、餅粕、菜種油粕、米糠、過磷酸石灰、木灰、人糞尿等であるが餅粕、米糠等は甘味を増すの効果が有り菜種油粕は色を良好にする、三要素の量は窒素最も多く次へで磷酸加里となすのであるが甘味を増す爲めには磷酸質肥料を相當に施すの必要がある、然しながら餘り多量に過ぎると外觀並に品質を落す傾向があるから適量を施す様に注意せねばならぬ、次に當分場の施肥の標準を次回に於て示して見やう

貸切は？

親しみあるサービスを以つて知られたる!!

尼子タクシ〜

電六四〇番

主任 澤 正 路

ライト

寫眞館

平町搔毬小路 電話五三三五番



銘酒 たびら正宗

二合樽詰 二十錢
四合 同 四十錢
一升 同 一圓

ヤマフル醸造元

鹽屋營業部

電話一〇番

寫眞

花! 爛漫たる花 この氣分を其まゝ、永久に晴れやかなる御姿を場所により氣分はかほる公園出張を寫場と同値花の公園三光館寫場

お花見仕出し

お花見に御格好な折詰お肴を勉強いたします

お 特 お一人前 四十錢
値 上 同 上 三十錢
段 並 同 上 二十錢

江戸前のメンパンさんを雇い入れました

平新川町 新藤屋本店 電話四五九

御花見に……



酒乃瓶詰 四合瓶詰、四〇
二合瓶詰、二〇

平町田町 永山酒店 電話二〇七番

破格的大勉強の新しい書店

舊塾中校下 乾商店跡に

新店であるが故の一次的勉強ではない、永久に海利多賢主義、親切、迅速をモットーとして皆様の御期待に奉仕する

- 目品商
- 書籍 雑記 中等教科書一式
 - 中等學校參考書 小學參考書
 - ノート 雜記 一般文具
 - 諸帳簿 紙類 高級萬年筆

平町搔毬小路 コマツ書店 電話三一五番 振替東京三五八〇八番

内科 外科 小兒科 梅毒 淋病

市原醫院 電話一〇一四

G.H.N 元 詰 葡萄酒 一トワイン

Y 1.10

御婦人の方には少し水を加へて召し上る風味一そう佳良です

(中二)西村屋藥舖 (電三)

平町 藤沼醫院 電話七〇五番

一度は使つてと覽 良く染りますよ

白毛染 八雲 一瓶 二五錢

超高級 へやー 一瓶 五〇錢

平町發賣所 五丁目 山野邊藥店

時下春風臨湯の候各位益々御清榮の段奉賀候陳者今回磐城共濟醫院新任院長として醫學博士石山謙郎氏兼任に付歡迎會相催し候間御多忙中忍入候共御贊成御出席被下度願上候

追前準備の都合も有之候間御贊成の方は共濟醫院内賀澤忠清氏宛仰越願上候

一、日時 四月十五日午後五時

一、場所 住吉屋本店

一、會費 金壹圓五拾錢

四月十三日 發起人(いろは順)

井上 茂 作 野崎 滿 藏

萩原 義 雄 山崎 與三郎

小田 吉 次 諸橋 久太郎

春帽とワイシャツ

モリタヤ洋品店 平五丁目電話三五三番

婦人洋傘 通學用雨マント 雨洋傘 取揃ました

外科、小兒科 平町、電話五一三番

外科、花柳病科 高久病院

耳鼻咽喉科

レントゲン科 院長 醫學士 高久忠